

秋田のローカル線の魅力、オンラインで発信

秋田内陸線は秋田県の北秋田市・鷹巣と仙北市・角館を結ぶローカル線。その名の通り、秋田の内陸部を縦断し、素朴な里山の魅力を車窓から存分に伝えてくれる。

大ヒットしたアニメ映画「君の名は。」に登場する駅が沿線の駅にそっくりとの情報が広まり、映画の聖地巡礼を目的とした観光客が多数訪れるなど、国内外から注目を集めた。さまざまなイベント列車を仕掛け、地道にファンを増やした。それが新型コロナによって水を差された。

そんな中、経営する秋田内陸縦貫鉄道株式会社が打ち出したのが、オンラインツアーの開催。世界遺産となった縄文遺跡や田んぼアートなど内陸線沿線の見どころを、ガイドが詳細に紹介。1時間、1人1500円の価格設定で昨年夏から秋にかけて、7回にわたり行った。

ガイドを務めたのは秋田県能代市の地域おこし協力隊員・斉藤常治さん。観光アレンダントによる阿仁合駅からのライブ中継も交えつつ、鉄道ファン歴40年の知識と経験を生かし、田舎の鉄道ならではのスローな旅の妙味を紹介した。ツアー参加者との質疑応答も行い、沿線への興味をかき立てた。

澄んだ空気、広がる田んぼ、ゆったりと流れる時間…。現地に足を運ぶことが一番なのはもちろんだが、まずは映像で一端を見てもらい、感じてもらうことで一度は行ってみたいと思わせる。そのきっかけづくりをするのが目的だった。昨年秋以降、感染者減に伴い、観光客も徐々に戻ってきた。オンラインツアーには一定の効果があつたとスタッフは手応えを感じている。

ただ、コロナの行方は見通せないのが現状。「リアルな観光旅行とオンラインツアーの両方をやっていかないといけない時代。いろいろアイデアを出し、着実にファンを増やしていくことが大切だ」と斉藤さんは語る。ウィズコロナの対応が今後とも鍵を握りそうだ。

秋田魁新報社 東京支社長 渡部永和



森吉山をバックに橋を渡る内陸線の列車



内陸線の列車に手を振る稲刈り中の人たち